



講師

濱田政則 先生

(アジア防災センター センター長
／早稲田大学名誉教授)

大成建設、東海大学、早稲田大学において、地震防災分野の研究と実務に従事。この間、土木学会会長、地域安全学会会長、日本地震工業会会長として、地震防災分野の国内外の研究・開発の促進に貢献。また、日本学術会議 土木工学・建築学委員会委員長として「防災分野の国際協力のあり方」に関する提言を取りまとめ、関係機関に発信した。現在は、アジア防災センターセンター長として、アジア諸国の防災体制の整備、復旧・復興対策を支援している。

【研究業績】

液状化地盤が水平方向に数メートルの方向で変位する現象を定量的に明らかにし、地盤変位の発生要因を解明して、変位の評価方法と対策工法を開発した。現在は、資源エネルギー庁による石油供給高度化事業に参画し、臨海部埋立地のエネルギー施設強靱化の指導を行っている。

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

4th lecture

タイトル

自然災害の増大と国土強靱化

地震・津波による自然被害が世界的に増大している。加えて、地球規模の気候変動に起因していると考えられる集中豪雨などの気象災害が多発している。これらの自然災害の増大に対して、我が国では、2013年に国土強靱化基本法が制定され、交通インフラ、ライフラインおよび港湾・海岸・河川などの防災社会基盤施設の強靱化が進められている。

本講演では、都市圏の埋立地に立地する産業施設を対象として、既往地震による被害、強靱化技術の開発の状況、国による施策の現状および残された課題について述べる。

加えて、地盤の液状化による被害に関連して、大分県別府湾に存在したとされる「瓜生島」の沈没の原因について、海底地盤調査結果などをもとに考察する。

開催日： 2020年12月7日（月）

時間： 10:30～12:00

言語： 日本語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN

